ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　103　号
２０１２．７．18

目　次

2012年度　北海道考古学会第49回総会略報……1
2012年度　北海道考古学会研究大会報告……7
遺跡見学会のご案内……8
2011年度　月例研究会の実施報告……9
月例研究会のお知らせ……10
北海道考古学会の歩み（３）……10
事務連絡……11
入退会者のお知らせ……11
会費納入のお願い……11
学会の新メール・アドレスのお知らせ……12
会誌編集委員会からのお知らせ……12

2012年度　北海道考古学会第49回総会略報

５月12日11時30分より、北海道大学学術交流会館にて本年度の定期総会が開催されました。会員数364名に対し、本人出席35名、委任状出席100名、合計135名で、総会設立要件である会員数の３分の１以上の出席を得たため、総会は成立いたしました。議長には第８地区の小野哲也会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、下記の原案通り承認されましたのでご報告いたします。

第１号議案　2011年度会務報告

（1）事業報告

ア　第48回総会・研究大会

期　　日：2011年４月23日
場　　所：北海道大学　学術交流会館
総　　会：2010年度会務報告、2011年度会務計画案
研究大会：テーマ「北海道の縄文文化研究の今」

イ　運営委員会

回数	開催日	主たる議題
第１回	６月５日	正副会長の選出・担当委員の決定
第２回	６月26日	遺跡見学会・月例研究会・だよりなど
第３回	７月31日	遺跡見学会・会誌編集など
第４回	９月25日	遺跡報告会・だよりなど
第５回	10月30日	遺跡報告会・研究大会など
第６回	11月27日	遺跡報告会・研究大会など
第７回	１月29日	研究大会・会誌編集・だよりなど
第８回	２月26日	総会・研究大会・会誌編集など
第９回	３月18日	総会・研究大会など

ウ　月例研究会

第１回：６月26日（北大人文・社会科学総合教育研究棟W104）15：00～16：20

①渡辺陽子氏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）他
「樹種同定から明らかにされる竪穴住居建築材の変遷」
②岡村　聡氏（北海道教育大学札幌校）
「北海道の縄文～続縄文遺跡から出土する緑色玉類の多様性」
第２回：７月31日（北大総合博物館中会議室）15：00～16：40
①上屋眞一氏（恵庭市教育委員会）
「ユカンボシＥ11遺跡の調査－矢柄と一括石鏃について－」
②菅野修広氏（登別市教育委員会）
「あの世の入口－竪穴住居跡とくぼみ利用の意味－」
第３回：９月25日（北大人文・社会科学総合教育研究棟W517）15：00～17：00
①藪下詩乃氏（有限会社アルケーリサーチ）
「彫器の使用痕分析－美利河１遺跡Ａ地点Ｉ石器群の事例から－」
②役重みゆき氏（東京大学大学院人文社会系研究科）
「蘭越型細石刃石器群の技術構造と適応戦略」
第４回：10月30日（北大総合博物館中会議室）15：00～17：00
①増田隆一氏（北海道大学大学院理学研究院）
「北海道のＤＮＡ考古学：その発展性と課題」
②青野友哉氏（伊達市噴火湾文化研究所）
「縄文晩期・続縄文期における殯様構造を持つ墓の出現過程について」
第５回：11月27日（北海道大学総合博物館中会議室）15：00～17：00
①林　勇介氏（湧別町教育委員会）
「擦文文化における竪穴住居跡・集落の考察－湧別川流域の遺跡を事例に－」
②簑島栄紀氏（苫小牧駒澤大学）
「平安日本と擦文社会」
第６回：１月29日（北海道大学総合博物館中会議室）15：00～17：00
①高瀬克範氏（北海道大学大学院文学研究科）
「カムチャッカ半島南部出土土器の年代」
②百瀬　響氏（北海道教育大学札幌校）
「河野広道の北方文化論と時代区分（分類法）」
第７回：２月26日（北大人文・社会科学総合教育研究棟W517）15：00～16：30
卒論・修論発表会
①飯浜幹広氏（札幌大学４年）
「オホーツク文化期貼付文土器」
②勝木麗華氏（北海道大学４年）
「Ｕ字形クワスキ先の研究－北海道および東北北部の事例研究－」
③藤原聖史氏（札幌大学４年）
「道北日本海沿岸の擦文土器」
④村田一貴氏（札幌学院大学４年）
「北海道中世城館における泊館の位置づけ」
⑤工藤　大氏（札幌大学４年）
「釧路地方におけるチャシと壕」
第８回：３月25日（北大人文・社会科学総合教育研究棟W517）15：00～16：45
①村本周三氏（斜里町埋蔵文化財センター）
「北海道東部地域における縄紋中・後期集落と平地住居」
②鈴木建治氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）
「シベリアにおける細石刃技術出現以前の様相　－OIS3段階の石刃の小型化現象について－」

エ　遺跡見学会

期　　日：８月28日
場　　所：登別市・伊達市・洞爺湖町
テ ー マ：「噴火湾の貝塚とだて噴火湾縄文まつり」
参 加 者：55名

オ　遺跡調査報告会

期　　日：12月17日（土）
場　　所：北海道大学文系講義棟１番教室
内　　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑

カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

100号：７月20日発行
101号：11月18日発行
102号：３月21日発行

キ　学会ホームページ

2012年３月まで（12ヶ月間）更新回数：27回

ク　会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第48輯の発行（2012年３月発行 500部）

ケ　特別委員会の活動

遺跡保護特別委員会
国際交流特別委員会

（2）収支決算報告

収　入

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,300,000	1,439,000	139,000	5,000円×287件　4,000円×１件
事業収入	研究大会収入	120,000	108,000	▲ 12,000	研究大会資料集販売 1,000円×108部
	遺跡見学会収入	240,000	220,000	▲ 20,000	4,000円×55名
	遺跡調査報告会収入	100,000	83,000	▲ 17,000	遺跡調査報告会資料集販売 1,000円×83部
	会誌等販売収入	200,000	153,300	▲ 46,700	会誌・資料集販売
	小　計	660,000	564,300	▲ 95,700	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		1	5	4	
繰越金		2,205,999	2,205,999	0	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特会収入	特別会計収入	0	0	0	
合　計		4,166,000	4,209,304	43,304	

支　出

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	400,000	327,400	72,600	要旨印刷・講師費用弁償・ 会場使用料等
	遺跡見学会費	200,000	159,910	40,090	貸し切りバス等／振込み手数料
	研究会費	20,000	32,140	▲ 12,140	案内発送、研究会共催費、 発表者交通費

項　　目	費　　目	予算額(A)	決算額(B)	残(▲超過)額	備　　考
事業支出	遺跡調査報告会費	300,000	239,146	60,854	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	1,000,000	667,590	332,410	第48号　500部／振込み手数料
	だより印刷費	160,000	139,945	20,055	100号・101号・102号／振込み手数料
	ホームページ費	50,000	29,352	20,648	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　　計	2,130,000	1,595,483	534,517	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	30,000	77,740	▲ 47,740	特別委員会費含む
	消耗品費	50,000	15,719	34,281	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	200,000	189,746	10,254	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃　　金	50,000	38,500	11,500	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小　　計	335,000	321,705	13,295	
特別支出		20,000	6,120	13,880	郵便振替受払書再発行費・日本考古学協会図書交換会申込み費用
予備費		1,681,000	0	1,681,000	
合　　計		4,166,000	1,923,308	2,242,692	

2011年度決算

項　　目	費　　目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(B−A)	備　　考
	収入総計	4,166,000	4,209,304	43,304	
	支出総計	4,166,000	1,923,308	▲2,242,692	
決算額差引	収入総計(B)ー支出総計(B)			2,285,996	

2011年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	2005年5月29日10,000円送金 2006年3月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	2008年3月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
合　　計				1,070,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		993,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	160,000		833,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	60,000		773,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		533,000	
合　　計		537,000			
基金残高				533,000	

(3) 監査報告

北海道考古学会の2011年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2012年４月23日　監査委員　千葉　英一　㊞
2012年４月21日　監査委員　羽賀　憲二　㊞

２号議案　2012年度会務計画

(1) 事業計画案

ア　基本方針

①　北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。

②　考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に柔軟に対処しうる体制をとる。

③　だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。

④　会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

イ　2012年度事業計画

①　研究大会

日　　時：2012年５月12日(土)　10：00～17：30
場　　所：北海道大学学術交流会館講堂
テ ー マ：「アイヌ文化期の『集落』研究」
事例報告：森岡健治氏・三浦正人氏・乾哲也氏・松崎水穂氏・小野哲也氏・小林孝二氏
討　　論：司会　古原敏弘氏

②　遺跡見学会

日　　時：８月予定

③　遺跡報告会

日　　時：2012年12月22日(土)
場　　所：北海道大学学術交流会館

④　月例研究会

開　　催：年８回
時　　期：６月、７月、９月、10月、11月、１月、２月、３月（予定）

⑤　特別委員会の設置

「遺跡保護特別委員会」
「国際交流特別委員会」
「北海道考古学会50周年記念事業実行特別委員会」

⑥　会誌「北海道考古学」第49輯の発行

発　　行：年１回
時　　期：2013年３月　500部発行

⑦　連絡誌「北海道考古学会だより」の発行

発　　行：年３回（第103号、第104号、第105号）
時　　期：７月、11月、３月

⑧　ホームページの管理運営

(2) 予算案

収　入

項　目	費　目	2012年度予算額(A)	2011年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,400,000	1,439,000	▲ 39,000	5,000円×280件
事業収入	研究大会収入	110,000	108,000	2,000	資料代1,000円×110部
	遺跡見学会収入	240,000	220,000	20,000	4,000円×60名（貸切バス２台）
	遺跡調査報告会収入	80,000	83,000	▲ 3,000	報告資料集売り上げ 1,000円×80部
	会誌等販売収入	150,000	153,300	▲ 3,300	
	小　計	580,000	564,300	15,700	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		4	5	▲ 1	
繰越金		2,285,996	2,205,999	79,997	
基金繰入金		0	0	0	
特会収入		0	0	0	
合　計		4,266,000	4,209,304	56,696	

支　出

項　目	費　目	2012年度予算額(A)	2011年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
事業支出	研究大会費	400,000	327,400	72,600	要旨印刷・講師費用弁償・ 会場使用料等
	遺跡見学会費	240,000	159,910	80,090	貸し切りバス等／振込み手数料
	研究会費	75,000	32,140	42,860	案内発送、研究会共催費、 発表者交通費
	遺跡調査報告会費	350,000	239,146	110,854	資料集印刷・発表者費用弁償・ 会場使用料等
	会誌印刷費	1,000,000	667,590	332,410	第49号　500部／振込み手数料
	だより印刷費	160,000	139,945	20,055	103号・104号・105号／ 振込み手数料
	ホームページ費	50,000	29,352	20,648	プロバイダー契約料、更新・ 維持管理費
	小　計	2,275,000	1,595,483	679,517	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	125,000	77,740	47,260	特別委員会費含む
	消耗品費	50,000	15,719	34,281	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	250,000	189,746	60,254	会誌・だより発送費・葉書切手代 金等含む
	賃　金	75,000	38,500	36,500	会誌・だより等の発送・その他事 務処理
	小　計	505,000	321,705	183,295	
特別支出		20,000	6,120	13,880	
予備費		1,466,000	0	1,466,000	
合　計		4,266,000	2,304,120	1,961,880	

2012年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	2005年５月29日10,000円送金 2006年３月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	2008年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費等積立金		300,000	1,620,000	2012年度積立（過年度支出分補填）
合　　計				1,620,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,543,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,383,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,323,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		1,083,000	
合　　計		537,000			
基　　金　　残　　高				1,083,000	

３号議案　北海道考古学会会則の変更

（旧）第８条３「総会は委任状を含めて３分の１以上の会員の出席をもって成立します」

↓

（新）第８条３「総会は委任状を含めて５分の１以上の会員の出席をもって成立します」

2012年度　北海道考古学会研究大会報告

今年度の研究大会は、テーマを『アイヌ文化期の「集落」研究』とし、調査成果が蓄積されつつあるアイヌ文化期の住居跡及び関連施設等について６名による事例発表を行った。その後、古原敏弘氏の司会による討論会を実施し、これまでに解明されたことや今後の課題について探った。

事例発表１　森岡健治氏「平取町におけるアイヌ集落構造」

平取町内の遺跡から発見されている住居跡は、水害などの影響を受けにくい河岸段丘上で、飲料水等資源入手の利便性を考慮した場所に建てられる。現在復元されているチセは、東西方向を意識して建てられているのに対し、発掘調査で検出した住居跡は、東西方向を必ずしも意識したものではない。また、明治以降の資料合わせると、道に沿って建てられる傾向にある。

事例発表２　三浦正人氏「発掘された千歳・恵庭両市域のコタン跡」

現在発見されている千歳・恵庭両地域の建物跡について、時期ごとに検証した結果、セムがある住居が建てられ始めるのは16世紀後半からで、17～18世紀には常設されるようになる。その理由は、本格的な農耕が始まり、収穫量の増大に伴って作業スペースが必要になったからではないか。また、建物の柱を、掘立柱、差込柱、掘立柱と差込柱の組合せの３タイプに分類。差込柱の場合、先に屋根を作り、屋根を交互に持上げるために外踏ん張りの構造になると指摘。

事例発表３　乾哲也氏「厚真町におけるアイヌ文化期の集落跡」

厚真町における当該期の遺跡は、厚真川上流～中流域の河岸段丘上に立地するが、近世の遺物は上流域からは発見されず、中流域で発見される。住居跡の方向は、川の上流方向を意識して建てられたと思

われる事例がある。また、神窓側の外部スペースを狭くしているのは、神聖な区域に立ち入らないようにしたと考えられる。

事例発表４　松崎水穂氏「上ノ国町とその周辺のアイヌ資料」

和人の館である勝山館から、大量の骨角器が発見され、和人の墓に混じってアイヌの墓も検出されたことから、館内にアイヌも住んでいたと考えられる。そのような視点から建物跡を検証すると、大手薬研堀のすぐ外にある建物跡がセムの付いた住居跡の可能性がある。また、近世になり勝山館廃絶後も町場（宮下右岸地点）からパスイが発見されるなど、アイヌが住んでいた痕跡が認められる。また、せたな町のセタナイチャシ、利別川河口遺跡、南川２遺跡でアイヌ墓等の調査例があり、菅江真澄の記録に、八雲町落部・遊楽部のチセが記載されている。

事例発表５　小野哲也氏「道東についての予察　ー標津遺跡群を題材にー」

道東では、アイヌ文化期の集落に関する明確な事例はほとんどなかったが、(財）北海道埋蔵文化財センターが実施した平成22年度の根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群調査により当該期の住居跡が発見された。これにより、道東にも道央部と同様の集居跡が存在し、道央部で培われてきた調査方法が道東でも通用することが証明されたと評価できる。また、過去の調査を再検証すると、アイヌ文化期の建物跡だった遺構もあるのではないか。例えば、伊茶仁カリカリウス遺跡で縄文時代中期の竪穴の窪み上の焼土もアイヌ文化期の住居の可能性がある。宇田川洋氏が提唱し、送り場と捉えていた竪穴上層遺構の中にも住居として利用したものがあるのではないだろうか。さらに、標津遺跡群で擦文土器を伴わない竪穴もアイヌ文化期のものかもしれない。

事例発表６　小林孝二氏「建築学から見たアイヌの建築文化」

建築学からの視点で、近世の幕吏による絵画と発掘調査成果を用いてアイヌの建物を検証した。現在復元されているチセは、寄棟萱段葺屋根で、小屋組は三脚叉首、室内に梁を掛けるものが主流だが、小屋組は９種類あって三脚叉首ばかりではなく、梁も絵画を検証する限り見られない。外観も、復元されているものは和人地に近い場所では多く見られるものの、西蝦夷地（ソウヤ）や東蝦夷地では屋根と壁との境が明瞭ではないチセが建てられており、現在イメージしているチセだけではなく、多種多様なチセがあったと考えられる。

全体討論

古原敏弘氏の司会で、これまでのまとめと今後の展望について討論した。討論では、古原氏が現在に伝えられている民俗事例を紹介し、それが発掘調査の成果に当てはまるか否か等について検証した。また、アイヌ文化期の調査では、火山灰が鍵となり、火山灰がないと発見にくいこと、包含層上部に堆積する地層が薄いために、後世の掘削で消失しやすいなど、発見の難しさも話された。さらに、調査者の先入観等で見逃している遺構もあるのではないかとの指摘もあり、様々な可能性を考慮に入れながら調査に臨むべきとする見解も出された。

遺跡見学会のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度は「厚真町の遺跡を巡る」をテーマとして、現在厚真町内で発掘調査中の遺跡を巡ります。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

主　　催　北海道考古学会
期　　日　８月26日(日)　雨天決行
集合場所　札幌駅東通り北口（観光バス乗り場前）　集合時間　８：00
　　＊バスは北遊観光バスです。
見学コース　ＪＲ札幌駅北口（８：00）⇒ 道央自動車道経由で厚真町へ
　　⇒ 午前：厚真町教育委員会が調査中の遺跡～ヲチャラセナイ遺跡・オニキシベ４遺跡など
　　⇒ 午後：(公財)北海道埋蔵文化財センターが調査中の遺跡～オニキシベ１遺跡・

朝日遺跡など
⇒ 道央自動車道経由で札幌市へ⇒ＪＲ札幌駅（18時頃到着予定）

＊なお、天候・道路・現場の状況により行程を多少変更する場合がございます。ご了承下さい。

参加費用　大人4,000円、中学生以下2,000円（バス代、保険料込み）

＊当日申し受けます。

＊別途､お弁当を注文することができます（地元の厚真米を使用した美味しいお弁当です)。価格は飲み物付き800円で、地元の業者が見学先まで配達してくれます。
申し込み時に「昼食希望」と明記してください。

募集人数　先着順60名（予定）

申込方法　往復葉書かメールで。電話受付は致しません。

①往復葉書の場合

＜往信部表面＞　〒060-0810 札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室気付
北海道考古学会事務局

＜往信部裏面＞　郵便番号、住所、氏名（同行者名も)、自宅電話番号、携帯電話番号、昼食希望の有無を記入。

＜返信部表面＞　返信用の郵便番号・住所・氏名

＜返信部裏面＞　何も記入しないでください。

②メールの場合

hokkaidokoukogakkai@auone.jpに郵便番号、住所、氏名（同行者名も)、自宅電話番号、携帯電話番号、昼食希望の有無を記入し、送信してください。

申込期限　８月17日(金)　当日の消印有効。

キャンセル　葉書かメールで。８月22日(水)以降のキャンセルは、下記問い合わせ先にお電話ください。

問い合せ先　**平日の18：00～20：00のみ**。見学会担当　芝田（090-9087-6802）まで。

服装・お持ちいただくもの

昼食（お弁当を注文しない方)・雨具は各自持参してください。また、歩きやすい服装・靴でお越しください。その他、帽子、飲み物、常備薬、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧めいたします。

2011年度　月例研究会の実施報告

北海道考古学会では2011年度、８回の月例研究会を実施しました。北海道大学を会場とし、６・７・９・10・11・１・２・３月の月末に開催しました（発表者および題目については、本だよりの総会資料中に記されていますので、割愛します)。このうち２月は、札幌圏の大学で考古学を扱った卒業論文の発表会としました。

研究会活動の活性化をはかるべく、話題性の高い遺跡調査の成果報告をいただいた他、今後の研究の進展に資するよう若手研究者にも積極的に発表していただきました。発表者・参加者ともに学問的な刺激が得られたことを期待しています。また、今年度は、何度か考古学の関連分野の研究者の方々にも、研究成果についての話題提供をいただきました。月例研究会は、北海道の考古学にかかわる、考古学内外のさまざまな話題に触れる機会になったのではないかと思います。

2012年度も、特定の時代やテーマには限定されない研究会を積み重ねていき、異なる専門分野を有する研究者が意見をかわすことができるような場となるよう活動を続けていきたいと考えています。多くの会員の方々のご参加・ご協力をお願い申し上げます。

月例研究会のお知らせ

北海道考古学会では、以下の予定で月例研究会をおこないます。予定の変更については随時学会ホームページ（http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）でお知らせいたします。

第２回月例研究会

○日　時：７月28日（土）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
○発表者：大塚宜明氏（明治大学大学院博士課程）
○テーマ：北海道島における旧石器文化のはじまり－不定形石器群の位置づけを通して－
○発表者：大坂拓氏（宮城県教育委員会）
○テーマ：本州東北部弥生社会の変動と北海道

第３回月例研究会

○日　時：９月29日（土）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
○発表者：三谷智広氏（洞爺湖町教育委員会）
○テーマ：近世アイヌ文化期の貝塚からみる生業構造の検討（仮題）

第４回月例研究会

○日　時：10月27日（土）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
○発表者：深瀬均氏（北海道大学大学院医学研究科人類進化学分野）
○テーマ：日本列島における縄文時代人の体形の地域差とその生態地理学的意義
○発表者：森久大氏（士別市立博物館）
○テーマ：道北の押型文土器について（仮題）

北海道考古学会の歩み（３）

大　谷　敏　三

（承前）

今日、北海道の先史時代を知る捷径として北海道考古学会の会誌がある。そうした会誌を出し続けた北海道考古学会の運営には多くの人々の営みがあった。

とりわけその時々の北海道考古学会を牽引した北海道考古学会の会長もしくは委員長を務めた人びとの功績は大きい。会長もしくは委員長を務めた人は12名にのぼる。

初代の会長に選任された大場利夫は昭和54年まで石附喜三男に会長の座を渡すまで15年７ケ月にわたって会長として北海道考古学会を牽引してきた。

その間、1964年以降、北海道大学新図書館内北方文化研究室に事務局を置き、総会、大会が開催され、会誌『北海道考古学』を刊行し続けた。

大場利夫は、高等小学校を卒業後、東北大学解剖学教室の児玉作左衛門のもとで標本作りをおこなっていたが、児玉の北海道大学への転任に伴い、北海道大学医学部解剖学教室に転任した。長い下積みを経て、講師から1966年に設置された文学部の北方研究施設の施設長（教授）となった。

大場にとって山内清男の元への国内留学が唯一の学歴であった。「私の最初のフィールド・ワークは、実に網走市モヨロ貝塚の発掘であった」（「発掘と私」）と後に回顧している。

当時、モヨロ貝塚、サイベ沢、住吉町、春日町、梁川町などの遺跡で大掛かりな発掘調査が行われており、大場はこうした発掘調査を通し考古学を学んでいった。

サイベ沢遺跡の調査では「縄文文化前期から中期にわたる円筒下層式、同上層式の七代にわたる土器

文化の変遷の状態をつかむことができた。あたかも教科書で示すような層位学的な研究が現実に行われたので、北海道における円筒式土器文化の全貌が明らかにされるとともに、同文化の標準遺跡として、本州北部との対比も容易になり、決論として北海道南部と奥羽北部は、縄文文化前期と中期に同一文化圏を形成していたことが実証された」(「発掘と私」) と層位学的研究の成果を感じている。

各地の郷土研究者との協同研究がなされた。これにより多くの遺跡が発掘調査された。これに大場は積極的に関わっていった。

北方文化施設は、「北海道を中心とするユーラシア北方圏の先史文化の解明を目指」す。稚内市オンコロマイ遺跡、礼文島香深井遺跡、枝幸町目梨泊遺跡、湧別町湧別遺跡などの調査を精力的に行う。しかし、考古学講座は開設されず、考古学を学ぶ者は稀であった。

大場はその著書で、「私は約30年の間に、北海道の北から南の全域にわたり、およそ百ヵ所ぐらいの遺跡を行うことができた。学術的に数多い新しい知見をえて、北海道先史文化の体系を整えることができた。なお北海道先史文化の概略の体系は、先学の故河野広道、名取武光両教授によって樹立されていたので私はその実証を果す役割をおこなったことになろう」(「発掘と私」) としている。

大場を知る人は、大場を容貌は穏やかで態度は常に柔軟だったと評する。しかし指導者、あるいは研究者としての大場に少なからず物足りなさを指摘する人はいる。

それは何かをもって世の中を動かしたり、河野広道が示した学問に対する熾烈さといったものが欠ける点にあるのかもしれない。

北大文学部に北方文化論講座が設立されるのは1995年である。北大は、地域の中核的大学として北海道の埋蔵文化財の問題に深く関わることはなかった。

その後、北大から林謙作と小杉康が北海道考古学会の委員長、会長を務めている。

(敬称略)

参考引用文献

大場利夫　1982「発掘と私」『北海道の先史文化』みやま書房
上田満男　1997「大場利夫」『わたしの北海道－アイヌ・開拓使－』すずさわ書店
竹田輝雄・野村崇・出村文理・菊池俊彦　2009「座談会「北海道考古学会草創期のころ」」『北海道考古学』第45輯

入退会者のお知らせ

≪新入会員≫　※敬称略

乾茂年（浜頓別町）　江田真毅（札幌市）　大谷茂之（八雲町）　高橋美鈴（江別市）
中野育男（東京都）　吉原秀喜（平取町）

≪退会者≫　※敬称略

大槻巌（福島県）　工藤肇（苫小牧市）　中谷麻美（洞爺湖町）　中村由香（石狩市）
本田克代（江別市）

会費納入のお願い

会の運営には会員の皆様の会費納入が不可欠です。会費の年度内納入にご協力いただけるようお願い申し上げます。また本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会会誌は送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770－６－8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　　（学生）3,500円

学会の新メール・アドレスのお知らせ

北海道考古学会事務局ではメール・アドレスを新たなものにしました。今後、新たな連絡はこちらまでお願いいたします。

新アドレス　hokkaidokoukogakkai@auone.jp

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌第49輯の原稿を募集しています。

『北海道考古学』第49輯（2013年３月刊行）への積極的なご投稿をお待ちしております。論文、報告以外にも、研究ノートや資料・遺跡紹介、書評なども大歓迎です。

原稿の締め切り日は以下のとおりですが、編集の都合上、11月22日(木)までに会誌編集委員会事務局まで事前に連絡をお願いいたします。原稿の分量・体裁等は、学会ＨＰに掲載している「投稿について」（2ａの原稿の採否通知時期及び別記２、３を更新しました)、「原稿の体裁について」をご参照ください。

なお、会誌編集委員会の事務局は、昨年度より下記に変更になっておりますので、よろしくお願いいたします。

原稿締め切り日　2012年12月26日(水)(必着)

会誌編集委員会事務局　〒066-0001　千歳市長都42番１
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター（担当：高橋理）
Tel　：0123-24-4210
E-mail：osamu.takahashi@city.chitose.hokkaido.jp

北海道考古学会だより　第103号　2012年７月18日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒062-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX：(011)706-4000
E-mail　：hokkaidokoukogakkai@auone.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668－1131